



令和6年9月4日  
海上保安庁

## 歴史的に貴重な世界地図を展示します！

～水路記念日企画展を開催します～

海洋情報資料館では、9月12日(木)の水路記念日にあわせ、普段展示していない海上保安庁が所蔵する歴史的に貴重な世界地図を展示します。

### 1. 企画展示期間

期間：令和6年9月11日(水)から10月13日(日)まで(月、火を除く)  
時間：午前10時～午後5時(入館無料)

### 2. 場所(下図参照)

海洋情報資料館

住所：東京都江東区青海2-5-18 青海合同庁舎1階

アクセス：新交通ゆりかもめ「テレコムセンター」駅下車、徒歩5分

### 3. 主な展示内容(別紙参照)

- ① 1513年にオスマン帝国のピーリー・レーズが作製した大西洋の地
- ② 1569年にゲラルドゥス・メルカトルが作製した世界地図
- ③ 1856年にドイツで作製された世界地図

### 4. その他

海洋情報資料館では、今回の企画展示のほか、伊能図(模写図)や歴史的な測量機器など、海洋調査等に関する貴重な資料を常設展示しています。

### 【参考】

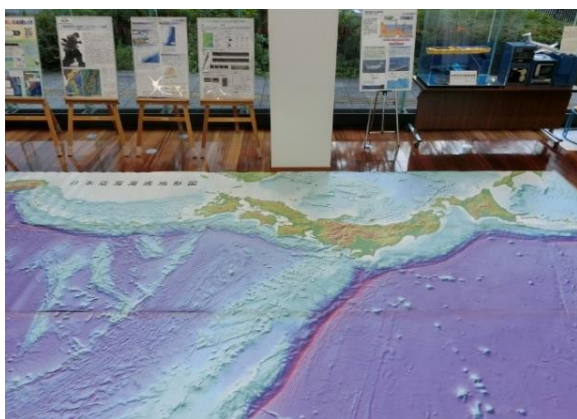
#### ・ 水路記念日とは

明治4年(西暦1871年)9月12日(旧暦7月28日)、兵部省海軍部に海図を作成するために水路局が設置されたことを記念した日で、今年で153年目となります。

この水路局設置により我が国の本格的な海図作製が開始され、兵部省海軍部水路局は、その後、様々な変遷をたどり、昭和24年には海上保安庁水路部、平成14年からは海上保安庁海洋情報部となっています。

- 海洋情報資料館の紹介

海洋情報資料館では、日本の海図作製初期の海図や明治初期に海軍内部で使用するために作製された秘密海図を展示しているほか、海上保安庁の調査で明らかになった日本周辺の海底地形を立体的に見ることができる「大型3D海底地形図」の展示や、古くなり役目を終えた海図を再利用してオリジナル紙バックを作る「工作コーナー」などを設け、海上保安庁の海洋情報業務に親しみを持って学んでいただけます。



- 海洋情報資料館へのアクセス



主な展示内容の詳細について

① 1513年にオスマン帝国のピーリー・レイースが作製した大西洋の地図

- ・ ピーリー・レイースは16世紀オスマン帝国の海軍軍人で、世界地図の作者として知られている。
- ・ 本図は1929年にイスタンブールのトプカプ宮殿博物館で発見された。
- ・ 当時の最新の地理的知識の見地で描かれた航海地図であり、本来はインド洋を描いたもの（消失）と合わせて1対となる地図である。
- ・ 2013年に海上保安庁がトルコ海軍関係者から複製品の提供を受けたもの。



② 1569年にゲラルドゥス・メルカトルが作製した世界地図（MERCATORS CHART OF 1569）

- ・ ゲラルドゥス・メルカトルは16世紀ネーデルラントの地理学者であり、現在の海図でも使用されているメルカトル図法の考案者として知られている。
- ・ 本図は18図1組からなる1569年の世界地図である。
- ・ 1図の大きさは50×65cm（縦長）であり、全体の大きさは200×300cm（横長）
- ・ 本図は、1889年にスイスのバーゼル図書館で発見され、国際水路局（IHB：現国際水路機関（IHO）の前身）が複製し加盟国に配布したもの。



③ 1856年にドイツで作製された世界地図（ERDKARTE）

- ・ 大きさは108×167cm（横長）、墨・青の2色刷、銅版印刷
- ・ ドイツで作製された図で、経度0度を左端とした配置にしているため、太平洋が中央付近に描かれている。
- ・ 経度の基準として、パリ、グリニッジ、大西洋のフェロー諸島の3つが用いられている。
- ・ 作製国であるドイツには現存していないことから、日独友好にかかる取り組みの一環として、平成31年3月、海上保安庁からドイツ連邦海運水路庁（ハンブルク）へ本図の複製品を寄贈した。

